

**奈良県川上村で600年近く行われている御朝拝式（年に1度）でのみ
拝見することが許される、門外不出の縹糸威筋兜（はなだいとおどしすじかぶと）、
「究極の国宝 大鎧展」での最後の公開について**

春日大社国宝殿で開催中の「究極の国宝 大鎧展」において、奈良県川上村で、村の信仰とともに大切に守られてきた室町時代の皇族・自天王（じてんのう）の遺品と伝わる重要文化財の兜の2回目の公開が行われます。**公開期間は、2025年8月28日（木）～9月7日（日）**です。川上村外での公開は今回が最後になる可能性が高いため、この機会にぜひ間近でご覧ください。

はなだいとおどしすじかぶと

**重要文化財 縹糸威筋兜（縹糸威胴丸のうち）
奈良県川上村所蔵**

【展示期間：8月28日（木）～9月7日（日）】

兜 鉢高11.3cm 前後径24.6cm
左右径23.3cm 鞆丈18.3cm

袖 総丈43.5cm 幅36.5cm
室町時代前期



後南朝の北山宮自天王の遺品として川上村で大切に護り伝えられてきた胴丸。

兜は、鉄黒漆塗三十八間総覆輪（そうふくりん）の筋鉢で、鞆（しころ）は札（さね）仕立て縹糸威（はなだいと）、五段下りである。正面に魚子地（ふなこじ）桐唐草文高彫の鍔形の鍔形台を打ち、外側をほぼまっすぐにした鍔形を挿す。吹返（ふきかえし）は藻獅子韋包（もじしがわ）とし、金物は桐文である。

袖も縹糸威、七段下り。八双金物の双鉾（そうびょう）は桐文、笄（こうがい）金物は桐唐草文透彫とする。

江戸時代に兜・胴・袖が分散して保管されていた際に、胴は火災で焼損し、胸板などの金具廻（かなぐまわり）や金物など鉄や銅の部分だけが残っている。

韋所のわずかな欠損や威糸の一部に切損が認められるが、極めて保存状態が良く、当初と考えられる兜や袖の緒が残っていることも貴重である。

兜鉢や鍔形、金物の特徴から室町時代前期の製作と考えられ、鉢の内側に蒲を半球状に編んだ緩衝材が入っており、この手法が奈良の甲冑師によるものと考えられていて、奈良で製作されたことがうかがえる。

池田 宏（東京国立博物館 名誉館員）

（参 考）奈良県川上村 御朝拝式（おちようはいしき）

川上村では毎年2月5日に、非業の最期を遂げられた自天王（じてんのう）を偲ぶ「御朝拝式」が執り行われています。自天王（自天親王・尊秀王）は南朝最後の天皇、後亀山天皇の曾孫にあたられる方と伝えられています。長禄元年（1457）、室町幕府から嘉吉の乱で没落した赤松家を再興させる条件として、北朝・幕府に敵対する自天王を討つよう命じられた、赤松家の遺臣により非業の死をとげました（長禄の変）。自天王はその時、18歳だったと伝わっています。

この変事を知った川上郷士たちは自天王の御首（みしるし）を取り返し、手厚く葬りました。そして長禄三年（1459）、遺品の兜などを自天王に見立て、三之公の御所での朝賀（ちょうが）（朝拝）の儀式になった「御朝拝式」が行われました。以来、「御朝拝式」は自天王に思いを寄せる川上村の人々の心とともに、566年の長きにわたり一度も途切れることなく連綿と守り伝えられています。



《 報道関係者お問い合わせ先 》

「究極の国宝 大鎧展」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：Gorgeous_Armors@tm-office.co.jp